

研究課題 (テーマ)		VR 学習システムを活用した看護技術教育の試み	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	准教授	林 静子
	看護学部看護学科	准教授	三善 郁代
	看護学部看護学科	助教	矢野 正晃
	看護学部看護学科	助手	細田 恵莉奈
研究結果の概要			
<p>1. 看護場面（滅菌手袋の装着）の抽出</p> <p>看護場面の抽出に向けて、研究組織のメンバーと看護場面の検討を行い「滅菌手袋の装着場面」を決定した。研究メンバーに 360 度カメラを装着し、実施者目線で撮影できるように調整を行い、「滅菌手袋の装着」の行動を撮影（動画）して教材化につなげた。</p> <p>2. VR 目視学習システムを使った教材化</p> <p>撮影した動画を研究組織のメンバーで確認を行い、教科書や資料を参考に視覚による観察ポイント・場面（清潔部分と不潔部分の意識、確認ポイント、不潔になりやすいと予測される場面等）の抽出を行った。撮影した動画と観察ポイントを VR 目視学習システム（mcframe MOTION VR-learning：東洋ビジネスエンジニアリング社製）に取り込んだ、滅菌手袋の装着場面の教材を作成した。</p> <p>3. 日本看護学教育学会第 29 回学術集会の「交流セッション」実施</p> <p>作成した VR 学習システム教材の活用可能性の意見交換のため、日本看護学教育学会第 29 回学術集会で「VR 学習システムを活用したシミュレーション教育の試み」をテーマに交流セッションを実施した。交流セッションでは、実際に参加者となる看護教員に VR 目視学習システムを体験してもらい、意見交換を行った。参加者からの意見には、VR 教材を看護学生のみならず新人看護師教育への活用できる可能性や、急変時の看護や侵襲のある技術の習得時に VR 学習システムが活用できる可能性があった。しかし、コストの問題から授業中に多くの学生が経験することが難しい状況にあり、使用方法の検討が必要なことも課題としてあがった。</p> <p>交流セッションで得られた意見を研究組織メンバーと検討し、当初の研究計画を見直し評価方法の検討を行い、VR 目視学習システム教材とビデオ学習教材を実施した対象者の注視点や思考内容の比較による評価を行う計画に変更した。</p>			
今後の展開			
<p>今後、看護学生を対象に今回作成した VR 目視学習システムを活用した教材と、ビデオ映像を活用した教材の視聴を行い、それぞれの教材を使用した後に実際に滅菌手袋を装着しその際の視線計測と、インタビューによる思考過程の比較によって評価を行う。</p> <p>調査に向けて倫理審査の申請、調査対象者の依頼を行い調査の実施を行う。結果を分析し、看護技術演習や学生の自己学習に活用できるように使用方法の検討を進めていく予定である。</p>			